



卒業・進級を祝うかのような紅梅・白梅

## 心からの感謝をこめて

校長 神田 朋恵

日陰にあった可愛らしい雪だるまも1週間ほどで溶けてしまい、その後は寒暖差の激しい日々が続いていますが、日中は温かな陽射しが増え、春の訪れを感じさせます。

1月下旬、地域の方が校長室に訪ねていらっしゃいました。その方は長年、ボランティアで朝の子どもたちの安全指導をしてくださっていました。御相談の内容は、御自身が安全指導で立たれている場所は、朝通行止めになっているはずなのに、時折自動車が侵入してきて危ないことがある、だから自動車が入って来ないように通行止めの置物を設置してもらえないか、またその保管場所については、近くの方と交渉したい、というものでした。何でもその方のお子様は本校出身であり、お仕事をリタイアされてからはお役に立ちたいと自主的に安全指導をしてくださっているとのことでした。そのお申し出は、自治会長様を通じて事前に御相談されていたこともあってトントン拍子に進み、現在、朝の安全指導で、子どもたちの命を守るために、一役を担ってくれています。学校として、本当にありがたく、感謝しております。

学校には、このような方が実に多くいらっしゃいます。皆さん御承知の通り、PTA役員、おやじ会、立哨指導や愛校運動に参加の保護者、学校運営協議会委員、スクールサポートネットワーク(SSN)参加団体、50周年記念事業実行委員、各自治会、民生委員・児童委員、交通指導員、読み聞かせボランティア、防犯ボランティア、放課後チャレンジ・土曜チャレンジ講師等の皆様と枚挙にいとまがありません。年度末を迎えるにあたり、子どもたちを思っの御支援・御活動に、感謝をしてもしきれないほどの思いが込み上げています。

今年度は、ポストコロナとして、様々な学校行事や教育活動の見直しを図った一年でもありました。5月号でお知らせしましたように、給食を「対面」で食べることから始まり、各種行事にお客様をお招きしたり、中止していた活動を復活させたりしたものもありました。折しも、こども家庭庁も発足し、子どもの居場所作りが叫ばれています。本校でも、本年度の総括と並行して次年度の計画を立てています。今後も子どもを中心に据え、子どもの想いや声を大切に聴くよう、より努力して参ります。主役は子どもです。そのためにも、本年度同様、保護者や地域の皆様と同じ方向を向いて歩んでまいりたいと考えております。子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは同じです。お子様のことで御心配な点がございましたら、どうぞ御相談ください。

結びに、学校だよりの本年度最終号の発行にあたり、卒業する6年生と各学年の課程を修了する1年生から5年生のお子様の新しい学年での御活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、この1年間の保護者並びに地域の皆様の本校教育活動への御理解と御支援に深く感謝申し上げます。